

第七期第2回豊島区生涯学習推進協議会 報告書

日時：令和5年3月27日（月）15：00～16：30

会場：南大塚地域文化創造館第4会議室

出席者

委員：高井正会長、中上亜樹副会長、齋藤知明委員
有島由己子委員、荘司哲夫委員、大高信委員、大澤友美委員
白根由貴委員、鈴木晴美委員
区：小池部長、井上課長、岡田係長、下条

1. 開会

- ・野瀬委員より欠席の連絡あり。
- ・傍聴者なし。
- ・有島委員の自己紹介

2 経過説明 について

第1回小委員会開催報告について

3月8日に開催した学識経験者の3人の委員による会議
(事務局)

- ・評価する方向性について、何を評価するのかは、『豊島区生涯学習ビジョン』P16～18 施策の体系図1、2、3にある、11の柱に沿ってはどうか。
- ・具体的な事業をぶら下げているものではないので、1つの事業に対して、複数の柱が該当し、運営する側も意識して運営していく必要がある。
- ・誰が評価するのか。

マナビト生の方を活用し、学びの一環として講座に参加して評価することを、5年度に実践していくのはどうか。

(高井会長)

評価は難しいが、いいやり方見つける。

数字、質、量のバランスなどの大きい視点、参画していくための視点などバランスよく見る。

(齋藤委員)

講師自身での評価も、テストケースで進めていく。

(中上委員)

評価はいろいろな目が必要。

3 評価について現状報告について

現状の評価はどのように行っているのか、区からは行政評価、地域文化創造館からは「エリアガイドボランティア事業」、みらい館大明からは「若者学びあい事業」についての報告。

評価には何を基準とし、どんな指標が必要なのかを意識する。

(事務局岡田) 区の行政評価

事業の目的や目標を再認識し、改善につなげるために区では毎年行政評価を行っている。特にA表については3年に一度の詳細な分析や評価となり、今年度はとしまコミュニティ大学事業が該当した。行政評価の結果は区のHPで公開している。

(有島委員) 地域文化創造館エリアガイドボランティア事業
地域文化創造館について

公益財団法人としま未来文化財団が指定管理者として5館が生涯学習事業、地域文化発信を担っている。毎月「地域文化創造館だより」を発行し、講座やイベントの情報を発信。
エリアガイドボランティア事業について

平成 26 年度からの 5 ヶ年の指定管理事業にて、地域の特色をいかした 5 館でガイド団体を立ち上げ、現在のエリアガイドは 4 団体。駒込と巣鴨で 1 団体としている。

ガイドの養成講座では、地域文化を知ることや本たちの振り返りだけではなく、自主グループとして組織化し、組織を作っていくための講座も行うなど、生涯学習の観点に力を入れてきた。

フォローアップ研修や情報交換会では、振り返りをしながら困っていることやお互いに意見を出し合い、理解しあう機会も作っている。

団体の高齢化もあり、今年度は「としまガイド養成講座」を 6 回にわたり開催した。ガイドのメンバーが講師となり、13 名の受講生から 3 名がガイド団体へ登録。20 代 30 代の年齢の若い方が参加して登録したことも成果。

評価についてと今後の展開

養成講座後に団体に登録した人数、参加者の反応はどうだったのかなどが評価として考えられる。

次年度以降もとしまガイド養成講座、フォローアップ研修を実施予定。目標はどうしていくのか、あわせて評価も考えていきたい。

地域文化創造館エリアガイドボランティア事業について質疑応答

(齋藤委員)

生涯学習の観点で実施しているはなぜか。

(有島委員)

生涯学習施設が実施する講座は生涯学習の一環として、サークルを作り、歴史や地理を学んで地域文化を発信。自分たちが学習したものを自分たちで考えて発表するかたちをとっているため。

(齋藤委員)

人数は適当なのか。

(有島委員)

団体によって人数はばらばら、30 人いる団体もあれば、8 人しかいない団体もある。少ない団体人数だとガイドの回数が多くやりがいもあるが、人数が多いとガイドをする回数は減る。人数が多ければ団体の活気もあり、研修担当など分業制をとって運営している。

(鈴木委員)

ガイドは豊島区を網羅しているのか？

(有島委員)

西は長崎のみ、東は池袋のあたりは薄い。目白や高田あたりは町会で地域を歩いてもらうことで、ガイドとの情報が入ってきた。ガイドだけでは網羅できないが、情報共有をすることで、イベントやまちあるきの連携をしていきたい。

また、小学校からもガイド依頼があり、地域学習に力をいれていきたい。

(荘司委員) 区と協働で実施している「若者学びあい事業」

廃校となった小学校の図書室を若者の居場所に、という区との協働事業。社会からの孤立化の予防事業。

対象は普通の若者。開館中は、何もやらなくていい、過ごし方はさまざま。令和 3 年度は 1167 人の利用者数があった。

まずはやってみようという若者のスタートアップの場。若者のやってみたいことを実現する場。コーディネーターと呼ばれるスタッフと一緒にやってみたいことを企画して実現する。コーディネーターは、社会教育実習やや団体登録にきた大学生やワークショップに参加し、ブックカフェに関わった人が、現在 4 人コーディネーターとしている。

ブックカフェはイベントをやっても貸し切りにせず、閉じない空間。日本語教室もブックカフェでやっている。一般の人も見えて参加してほしい、そして若者が活動を通じて地域とつながることが自然な流れでできるといい。地域の接点は大事にしているところ。

評価について

- ・若者が地域とつながる、地域と接点ができること
- ・事例を積み重ねて冊子などで表現すること
- ・こんなことがあった、できた事例にあげられること、共感できること
 - 池袋みらい国際映画祭 -

地域の人に見てもらうことで始まった映画祭は、すでに7回。文化庁の助成金で実施している事業。若手映像作家の支援として一緒につくってきた事業は活動の事例として評価。

(高井会長)

柔軟性の高い事業。共感できる事業を積み上げていくことができる、このような施設があることが大切なこと。

「若者学びあい事業」質疑応答

(白根委員)

みらい館大明の利用や映画祭参加、荘司委員とママ向けの講座を実施したことがある施設。

(有島委員)

若者が地域に触れられ、交流できる場があることは画期的。地域文化創造館でも若者を対象とした「ぷらり★としまU-30」もあるが、若者をターゲットにするのは難しい。若者に声をかけるタイミングを教えてください。

(荘司委員)

体育館を使っている大学生などに、タイミングをみて。コーディネーターとなる人には時間をかけて話し、コーディネーターとしての人を作り上げていく。教育的な営みと柔軟な対応が施設運営も含めて求められている。これらは、言葉で事例を出すことで評価にもつながること。丁寧にやっていく。

4 今後の進め方

(事務局)

今回の議論を受けて、小委員会で検討し、6月の本委員会で評価指標についてお示しし、その後実際にマナビト生の学びとして活用した評価をやってみた上で、令和5年度中には評価指標を定めていきたいと考えている。

(高井会長)

評価指標について今後定めていく。委員の皆さんには、次回までにどのような評価指標がふさわしいかご意見をいただき、ポイントとなることを明確に考えていくことと、難しくしないような提案と整理をしていく。

学習の一環として、マナビト生やそのほかの方からの評価も実践してみる。

(事務局)

次回の協議会の開催については、6月頃を予定。その前に、小委員会を開催し議論を深めていく。

閉会

(高井会長)

いくつかの事業を選択やどんな共通な言葉や特有な言葉を使って表現するのか、すそ野を広げるための評価について適宜ご意見をいただき、今後の議論に反映していく。本日の議題は以上で終了とする。